



京都フィロムジカ管弦楽団 第21回定期演奏会



 京都芸術センター制作支援事業

京都市右京ふれあい文化会館
2007年6月24日（日）午後2:00開演

1:15よりプレコンサート

— PROGRAMM —

ベルワルド／シンフォニー・セリューズ（交響曲第1番）

Franz BERWALD

Sinfonie sérieuse

- I. Allegro con energia
- II. Adagio maestoso
- III. Stretto
- IV. Finale: Adagio-Allegro molto

— 休憩 —

ブラームス／交響曲第1番ハ短調

Johannes BRAHMS

Sinfonie Nr.1 c-moll

- I. Un poco sostenuto-Allegro
- II. Andante sostenuto
- III. Un poco allegretto e grazioso
- IV. Adagio-Più andante-Allegro non troppo ma con brio

指揮：中村 晃之

携帯電話・アラーム付腕時計など音の出る機器の電源は必ずお切りください。

客席での飲食・喫煙・写真撮影・録音・録画、上演中の私語は固くお断りいたします。

補聴器がまれに異常音を発することがございます。ご使用の方はご注意願います。

ごあいさつ

本日ここに「京都フィロムジカ管弦楽団」定期演奏会を開催するにあたり、ご多用にも拘わらず、多数の方々のご来場をいただきまして、誠にありがとうございます。

この定期演奏会も、メンバー諸君が仲間と貴重な、しかも楽しい音楽経験を積み重ねて、はや第21回目となりました。今回の演奏会は指揮者に中村晃之氏をお迎えし、先生のご指導のもと、ますます努力と研鑽を積み重ね、本日ここに魅力あふれる重厚で力強いブラームスの交響曲を、披露してくれるものと期待致しております。皆様にはその努力の結実を演奏の中にお聴きいただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、「京都フィロムジカ管弦楽団」の為に、物心両面にわたるご支援を賜りました皆様方をはじめ、ご指導下さいました先生方に厚く御礼申し上げますと共に、定期演奏会のますますの発展を祈りまして、ご挨拶とさせていただきます。

京都フィロムジカ管弦楽団顧問 和田之宏

演奏する側からオーケストラを見てみると、私たちはいつも「一蓮托生」「運命共同体」といった感覚を持っています。いまふうに言うところ「30人31脚」でしょう。つまりひとり一人がベストを尽くしてこそ最もよい結果が生まれる団体競技に似ています。そこには厚い信頼関係があり、普段の練習でのコミュニケーションがそのまま表れるように思います。管弦楽では同じフレーズを何度も繰り返し演奏しますが、自分の直前の担当の人がうまく演奏したとき、それは自分のことのようにうれしく感じます。こんな旋律のつながりをきょうはお伝えできればいいと思います。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

京都フィロムジカ管弦楽団団長 長岡武志

京都フィロムジカ管弦楽団 Philomusica Orchester Kyoto

Konzertmeister

田村 うらら
(Brahms)
西村 浩輔
(Berwald)

Violine

天澤 天二郎
越後 美和
小幡 拓也
佐多 久美子
澤田 菜摘
塩田 怜奈
島田 まゆみ
田原 靖子
田村 うらら
津田 卓郎
中島 円
西村 浩輔
西村 せり花
西村 祐司
水野 紗綾
山口 陽平
飯田 俊也※
磯貝 碧里※
上山 瑞穂※
大浦 一馬※
皆藤 千穂※
久保田 茜※
古坂 馨※
中谷 加奈※
保科 憲孝※
三木 加陽子※

Bratsche

相澤 悠
新居 英晃
田中 邦人
玉置 あや※
松浦 淳司※
丸山 圭一※
森 静香※
吉川 昌毅※

Violoncell

海野 香織
岸本 妙子
小林 豪
多田 進
松浦 優香
山崎 敦子
佐藤 依里子※
木坂 有男※

Kontrabaß

鎌野 亘
小道 信孝
茂原 尚樹
鳥山 拓
山崎 正記
名坂 美香※

Flöte

江藤 佳美
加藤 勇仁
小松 朋美

Oboe

石原 才子
西坂 加奈

Klarinette

上高原 千寿子
田中 慎一郎
馬屋原 隆広

Fagott

石塚 有里子
常見 英加

Kontrafagott

桂田 菜保子※

Horn

芦原 俊平
片山 真吾
草木 美佐子
坂口 裕志
長岡 武志
野田 啓
増田 亜由美
吉野 文彦

Trompete

遠藤 啓輔
竹内 恵理
中西 美智子

Posaune

益田 繁幸
池田 千紗※
菅山 光城※

Tuba

塚田 淳一

Pauken

木村 祐※

※：客演奏者

顧問

和田 之宏

団長

長岡 武志

事務局長

西村 浩

管トレーナー

山崎 雅夫

指揮者

中村 晃之 (なかむら てるゆき)

1962年生まれ。関西学院大学卒業。在学中より本格的に指揮を始め、大友直人、湯浅卓雄の両氏の下で副指揮者を務めた。その後、指揮法をクルト＝レーデル、小林研一郎、小松一彦の各氏に学ぶ。

1999年5月、彩の国さいたま芸術劇場にて開催されたクルト＝レーデル指揮コンクールにて第2位奨励賞を受賞。

1988年以来かぶとやま交響楽団指揮者を務める傍ら、関西各地の社会人オーケストラと積極的に演奏活動を行っている。



プレ・コンサート

R. ワーグナー (シュティエグラール編曲) : 「ローエングリン・ファンタジー」より

Hrn. 坂口、草木、片山、長岡、増田、芦原、野田、吉野

ワーグナーの楽劇「ローエングリン」の有名な部分を集めて、カール・シュティエグラールというホルン吹きがホルン八重奏に編曲したもので、今回は一部抜粋したものをお送りします。有名なメロディーがあちこちに登場します。ホルンは音域がとても広いので、8人で演奏すると、とても厚みのある音色になりますが、その分、上のパートは、高い音を、下のパートは超低音を担当することになり、演奏者は大変です。元がオーケストラ曲の編曲なので、ホルンで演奏するには多少無理があるところも・・・

G. F. ヘンデル (ハルヴェオルセン編曲) / パッサカリア

Vn. 水野 Va. 相澤

「パッサカリア」はヘンデルが作曲した「クラヴィーアのための組曲集」のなかの一曲で、美しく華やかな変奏曲。この変奏曲をヴァイオリンとヴィオラのためにヨハン・ハルヴェオルセン (1864-1935) が編曲したものを演奏します。

F. ベルワルド / 弦楽四重奏曲第2番 より第4楽章

Vn. 田村、西村浩輔 Va. 相澤 Vc. 多田

ベルワルドが書いた3曲の弦楽四重奏のうち、2番と3番は終期の作品として密かな人気を誇っている。第2番はベルワルドらしいユーモアと叙情性に満ちた曲で、第4楽章の不思議な調感は今現代においても特異極まりない。

J. ラーツ / 室内協奏曲第1番 より第1楽章

弦楽合奏 : フィロムジカ有志

ラーツは、トゥッピンやペルトと同じエッセル門下として名を連ねるエストニアの作曲家である。その音楽はきびきびしたリズムを主体としている。この曲は、導入の特徴的なリズム動機と独特の跳躍的メロディーが全曲を通して支配しており、聴衆も奏者も楽しい事この上ない。

ベルワルド／シンフォニー・セリューズ（交響曲第1番）

ベルワルド（1796 - 1868）の作品が日本でもよく演奏されるようになったのはここ 10 数年のことではないだろうか。しかしながら、演奏されるのはいつも第3交響曲「サンギュリエール（風変わりな）」ばかり。今回、「シンフォニー・セリューズ（厳粛な交響曲）」をお届けできることはベルワルド演奏史に重要な1ページを刻めるものと自負している。ベルワルドは「ベールヴァルト」とも書かれるなど日本語表記が統一されていないこともあって（僕自身、以前の曲目解説で「ベルヴァルト」と書いたことがある。第11回定期演奏会配布パンフレット参照）、演奏史を調べるのが困難であるが、おそらく今日の演奏が日本初演になるのではないだろうか。

ベルワルドは、青年時代は故郷スウェーデンの歌劇場オーケストラでヴァイオリンを弾きながら作曲をしていたが、後にヴィーンに移り住んで本格的に作曲家として活躍。4つある交響曲はいずれもヴィーンで作曲されたもので、40歳代後半の数年間のうちに集中して書かれている。ちなみに、本日後半プログラムで演奏するブラームスも、4曲の交響曲を40歳代から50歳代の間に集中して作曲した。マーラーのように作曲家としての生涯のすべてを交響曲に捧げた人がいる一方で、ベルワルドやブラームスのように脂の乗り切った時期にだけ集中して交響曲を書く作曲家がいるというのなかなか面白いことだ。なお、交響曲には4曲ともに表題がつけられているが、どれもいい加減な題で（「厳粛な（第1番）」「気まぐれな（第2番）」「風変わりな（第3番）」「素朴な（第4番）」）、およそ鑑賞の助けにはならない。むしろ表題は識別記号程度に考え、表題と無関係に音楽を楽しむ方が良いだろう。

ベルワルドはオーストリアで活躍した後、スウェーデンに戻るが、故郷ではさっぱり評価されなかった。おそらく、武満徹がストラヴィンスキイに絶賛されるまで日本で評価されなかったのと似たような状況だったのだろう。しかし、多才なベルワルドは実業家として成功を収めていた。音楽以外の道で生計を立てていたがために、保守的な楽壇に媚を売る必要が無く、独創的な作品を作曲し続けることができたのは幸いであった。ベルワルドは死の間際になってようやく評価されるようになり、現在ではストックホルムに「ベルワルド・ホール」がつけられるなど、故郷スウェーデンにおいて高い尊敬を集めている。これから全世界において、その独創的な作風に対する再評価がなされていくに違いない。

最初の交響曲である「シンフォニー・セリューズ」は、ベルワルドの独創性が遺憾なく発揮された傑作である。シューベルト、メンデルスゾーン、シューマンら前期ロマン派の作曲家たちと同時代の作品だけあって、簡潔なオーケストレーションとしなやかな旋律美が魅力的であるが、その一方で、この曲には後期ロマン派から近代の作品を先取りしているかのような前衛性があり、その両者が見事に融合している。この曲の前衛性の最たるものは、フィナーレの冒頭でアダージョ楽章が回想されることにある。ベートーベンの9番のようにフィナーレの冒頭で先行する3つの楽章を回想する先例もあるが、「セリューズ」ではアダージョ楽章のみが回想される点で独特である。「セリューズ」は、アレグロの第1楽章、アダージョの第2楽章、スケルツォに相当する第3楽章、そしてアレグロの第4楽章（フィナーレ）、という古典的な4楽章形式を取るが、フィナーレの冒頭でアダージョが回想されることから、アダージョとアダージョの間にスケルツォ

が挿入されていると見る事が可能である。ベルワルドはこの発想を第3交響曲「サンギュリエール」でさらに徹底する。アレグロの第1楽章、アダージョの第2楽章、プレストのフィナーレ、という3楽章構成の交響曲とし、その第2楽章はアダージョの音楽の中央にスケルツォに相当する躍動的な音楽を挿入した独特な曲としたのだ。この構成はフランクの傑作・交響曲ニ短調を先取りしている。さらには、マーラーが得意とした、スケルツォを中央の第3楽章に置くシンメトリカルな5楽章構成の交響曲の先駆と考えることもできるのである（フィロムジカが前回演奏したマーラーの音詩『巨人』もこの構成を取る）。1842年に書かれた「セリューズ」は、20世紀のマーラーの作品にも通ずる、時代を先んじた傑作といえよう。

第1楽章：警笛のように鋭い動機が打ち込まれて衝撃的に始まる。この冒頭の動機は、全4楽章を通じて頻繁に顔を出し、全曲の統一感を高めている。明るい響きが魅力的な楽章であり、また、息の長い旋律と機関銃のように打ち込まれる管楽器の動機の対比が鮮明な印象を残す。

第2楽章：神秘的な楽想、静謐な響き、木管を主体とした渋い音色が聴く者を魅了する。どこか『パルジファル』をはじめとするヴァーグナーの音楽を髣髴とさせる。しかしながら、「セリューズ」が作曲された当時、ヴァーグナーは主要作品のほとんどをまだ作曲していなかった、という事実には驚愕せざるを得ない。第1楽章冒頭の動機が、ここでは柔和に姿を変えて木霊（こだま）のように優しく呼び交わしあう。

第3楽章：スケルツォに相当する。非常に速い音楽に断片的な動機が織り込まれており、その精密機械のような動きは実に前衛的だ。トリオに相当する中間部でもテンポは速いままだが、柔らかな響きに変貌し、聞く者に安らぎを与える。この中間部で、第1楽章冒頭の動機がトランペットによって静かに優しく吹き伸ばされる。主部が再現された後、休みをおかず第4楽章へと続けられる。

第4楽章：前述のように第2楽章の回想で幻想的に始まる。アレグロの主部は切迫感と不安に満ちたものであり、アダージョ楽章の回想との対比が鮮明である。クライマックスでは、第1楽章冒頭の動機が運命の告知のように鋭く打ち込まれ、悲劇的な頂点を形づくる。かと思うと、突如として柔和で落ち着いた音楽に豹変する。この破天荒で人を食ったような表情の変化は非凡としか言いようが無い。最後は、第1楽章冒頭の動機にもとづく雄渾なバス・トロンボーンソロに先導されて、壮大な終結を迎える。

(Tp.遠藤啓輔)

ブラームス／交響曲第1番 ハ短調

ブラームス(1833 - 1897)は生涯に4曲の交響曲を書いたが、この第1番は構想から完成まで実に24年もかかり、本人がいかにこの曲に力を入れていたかを物語っている。本作品は彼を代表する傑作として交響曲作品の金字塔と言えよう。

ここで傑作とは何か、を考えてみたい。音楽から少し話はそれるが、傑作という意味で映画の作品を引き合いに出して説明したい。皆さんは『市民ケーン』という映画を見たことがあるだろうか。これは1941年のオーソン・ウェルズの作品で、ある大富豪の生涯を描いたミステリーなのだが、実はこれが世界一の映画だというのだ。英国映画協会は世界映画史上作品ベストテンで40年間連続第1位、米国映画協会でも米作品ベスト100の堂々第1位である。現在これだけ多くの映画作品が毎日のように封切りされているなかで、60年以上も前に作られた映画が現在もなお1位を取り続けているのはなぜだろうか。答えはこうだ。『市民

ケーン』は映画というものを単なる娯楽から芸術の域まで引き上げた傑作であり、この作品が現在の映画の繁栄をもたらし、いまの映画監督はこの作品に多大な影響を受けているからだ、というのである。確かにこの映画を繰り返し見ると、実にさまざまな工夫がなされている。ストーリーの見せ方、時間配列、カメラワーク、照明、音楽、場面の移りかわり方、謎解きなど今の映画では半ば常識となっている映画の撮り方がこの映画にはぎっしり詰まっている。当時としてはきわめて画期的で視聴者はさぞかし驚いたことだろう。

傑作とはその分野で確固たる地位を築き上げ、将来においても手本となるような優秀な作品で、人々が尊敬の念をいだくもの、と私は思う。私たちはこれからも傑作を取り上げて演奏してゆくが、後世にこれを伝え、さらなる傑作を生み出すきっかけになればいいと思っている。

第1楽章

ブラームスは1番にだけ序奏をつけた。冒頭、ティンパニが打ち鳴らす高音の鼓動に弦楽器が奏する半音階上向音型はこの曲全体を支配する。彼は自身の交響曲を作るとき、ベートーヴェンの5番と9番を参考にした。苦悩から勝利、歓喜へ展開する手法で、4楽章にだけ3本のトロンボーンを加えた。この第1楽章はソナタ形式のルールを寸分たがわず踏襲しているのに内容がきわめて独自である。料理で言えば「美味しい」だけでなく、栄養学の基礎がきちんと守られている。このレシピは最高だ。

第2楽章

一番初めに弦に出てくる旋律を覚えておいてほしい。しばらくするとオーボエがソロを演奏するが、そのときに弦がその旋律で伴奏するからだ。昔の思い出、そして今の幸せが心のなかでちょっとだけずれて溶け合う。最後、ヴァイオリン独奏とホルンの掛け合いが美しい。

第3楽章

通常、旋律は4小節単位だがここでは最初は5小節（クラリネット）、2回目は7小節（ヴァイオリン）にしてある。さらに初めに出てくるフレーズを上下ひっくり返している。どの分野でも思いつくことは誰にでもできるが、それを実現するのはたやすいことではない。

第4楽章

冒頭、再び厳しい現実が突きつけられる。しかしそのあとホルンにアルプスを思わせる旋律がでてくるが、これはブラームスがクララの誕生日に歌詞をつけて贈ったものだ。主部に入るとベートーヴェンの第九に似た旋律を弦楽器が演奏する。私たちにとっては第18回定期演奏会で演奏したロットの交響曲第1番第4楽章に通ずるものだ。思えば当時はフィロムジカにとって苦難のときだった。きょう私たちがこの曲を演奏できることを幸せに思い、聴衆のみなさまには感謝の気持ちをこめて演奏したい。

(曲目推薦者 Hrn.長岡武志)

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ輸入・販売・修理・調整・製作

イチイヒロキ Violin Shop

～ 数楽章をもっと知り、楽しむ人へ～

- ◆イタリア、ドイツ製ヴァイオリンなど直輸入、品質には自信のある楽器や弓を良心的価格で揃えています。まずは手にとって御試奏を。
- ◆扱は格安価格にて通信販売。ケースその他、特価品有り、当店はただ売るだけでなく良いものをお奨めいたします。

楽器の音色の美しさ、するどさ、しなやかさ。表現の多様性から広がっていく音の世界。イチイヒロキViolin Shopはより深みのある、新鮮な音を目指して、あなたをサポートします。

営業時間：pm. 1:00 - pm. 7:00
定休日：(月・火)

◆〒602-0831 京都市上京区立本寺町79
◆Tel: 075-251-0724
◆携帯：090-3628-0863
◆e-mail: ichii@violinshop.jp

<http://violinshop.jp>





京都フィロムジカ管弦楽団「友の会」会員様ご芳名

村上 治子様	渡辺 晴菜様	谷口 佳隆様	永野 貴子様	大東 直勝様
川野 浩之様	杉本 幸子様	高橋 順子様	孝本 浩基様	吉田 健太様
渡辺 真人様	大原 達也様	三木 敏弘様	堀井 達雄様	せき やすいち様
渡辺 和美様	安藤 美知穂様	岡本 幸雄様	吉田 寛子様	政岡 潤平様
松村 里香様	稲村 董雄様	中西 充弥様	飯田 俊也様	小出 実様
松村 正人様	遠藤 時金様	信広 澄子様	梅下 義一様	小出 敏枝様
越後 千代様	倉田 八重子様	横田 洋子様	大八木 武文様	木下 清美様
渡辺 一真様	井谷 宏美様	茂原 重一様	大八木 隆子様	西坂 壽美子様
渡辺 由加理様	鏡本 和弘様	吉田 育弘様	中島 保志様	

2002年4月に発足しました「友の会」は、上記会員の皆様方よりご支援いただいております。(2007年6月現在)



印刷のことなら

大地社

〒602-0858
 京都市上京区河原町通荒神口上ル二筋目東入ル
 TEL (075) 231-1727(代)
 FAX (075) 256-4604

合宿・個人旅行・団体旅行・スキー
などの全ての旅行をサポートします

日本教育旅行(株)

京都市下京区下数珠屋町通東洞院東入
 0120-040-566(フリーダイヤル)
<http://www.net-freeway.com>
 担当 藤田 珠里

クラシック音楽の海外公演・国際交流

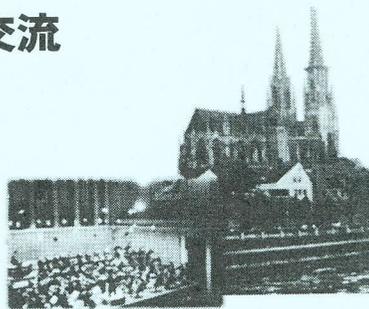
海外での公演・国際交流は、現地でのマネジメントが大切です。
 弊社は日本のオーケストラの海外公演・国際交流を、真の意味で成功させて参りました。
 海外公演・国際交流のお手伝いはおまかせください。

海外公演実績・予定

- 岡山県桃太郎少年合唱団ヨーロッパ公演 1998年、2005年8月
 (ドイツ:レーゲンスブルク大聖堂/ブラハ:ルドルフィヌム スークホール他)
- 同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演 1998年、2001年、2004年、2007年
 (ブラハ:ドヴォルザークホール/ブダペスト:リスト音楽院/ミュンヘン/ヴェルツブルク/グラーツ他)
- 彦根市ベルリン第九オーケストラ・合唱団 1999年12月 (ベルリン:SFB放送大ホール)
- 京都市民管弦楽団ヨーロッパ公演 1999年 (ウィーン:ムジークフェライン大ホール他)
- 岐阜県交響楽創立55周年ウィーン公演 2009年 (ウィーン:ムジークフェライン大ホール) 予定

ホームページ: <http://www.mitsuma.com/>

協力会社: ルフトハンザドイツ航空会社、全日空、JTB、近畿日本ツーリスト、AIU保険会社



(社) 日本クラシック音楽事業協会会員

(株) ミツマ・ミュージックプロダクツ

〒605-0009 京都市東山区三条通大橋東入ル大橋町102 田中ビル5F Tel.075-761-1213 Fax.075-752-5568

京都フィロムジカ管弦楽団からのお知らせ

♪ 第 22 回定期演奏会 ♪

2007 年 12 月 24 日 (月・祝)・京都府長岡京記念文化会館

山田耕柞／交響曲へ長調

ハチャトゥリアン／『仮面舞踏会』組曲

シベリウス／交響曲第 7 番ハ長調 (予定)

♪ 第 23 回定期演奏会 ♪

2008 年 6 月 8 日 (日)

京都府長岡京記念文化会館

曲目未定

♪ 第 24 回定期演奏会 ♪

2008 年 12 月頃

京都コンサートホール (大ホール)

シベリウス／クレルヴォ交響曲 (予定)

♪ 新入団員随時募集中 ♪

募集パート：ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス

オーボエ・ファゴット・トロンボーン・打楽器

※管・打楽器はオーディションがあります。

※コントラバスは団所有の楽器があるため、楽器に関しては相談に応じます。

詳しくはお問合せください。

Tel : 090-8163-4626 (専用携帯電話 担当・竹内)

E-mail : recruit@kyotophilo.com

♪ 「友の会」会員随時募集中 ♪

フィロムジカの活動を応援して下さる方を募集しています

【年会費】 1口 1,000円 【期 間】 ご入会いただいた月より 1年間

【特 典】 1. 期間内の定期演奏会に、1口につき 1名様を無料ご招待

2. その他演奏活動のご案内

3. 定期演奏会プログラムへのご芳名の掲載

お申込み・入会に関するお問合せ

Tel&Fax 075-605-0123 (西村)

E-mail : tomo@kyotophilo.com

京都フィロムジカ管弦楽団ホームページ <http://www.kyotophilo.com/>